

自己評価報告書(最終報告)

報告者

特別支援教育専攻
／津田 芳見

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

特別支援教育は、特別なニーズのある子どものために、その特性に応じて、実施されるように示されている。対象となる障害の特性について、また併存障害、二次障害に関して、子どもたちのニーズをとらえ、評価し、それに応じた、教育のあり方を指導できるような教育の専門性を深めたいと考える。知識獲得だけでなく、自ら参加し、考える態度を重視したい。

- ①障害児の医学的特性について、知識、ニーズの把握、分析を指導する。
- ②視覚的情報提供、演習、実習などを組み合わせる。
- ③自ら探求し、考え授業にて討論しながら、知識技能を高めることをめざし、授業態度、意欲などを考慮し、評価を行いたい。

2. 点検・評価

特別支援教育は、特別なニーズのある子どものために、その特性に応じて、実施されることが望まれている。対象となる障害の特性について、また併存障害、二次障害に関して、子どもたちの実態を把握し、評価し、それに応じた、教育を行えるように教育の専門性を深めたいと考えた。そのために、自ら参加し、考える態度を重視した。

- ①障害児の医学的特性について、知識、ニーズの把握、分析を指導する。
- ②視覚的情報提供、演習、実習などを組み合わせ、グループで討議することを取り入れ、学生から意見が多く出現した。
- ③自ら探求し、考え授業にて討論できるように、グループでワークショップ的な討議を取り入れたところ、様々な意見が多く発表され、自らの学びには効果的であった。
- ④学習習得の評価について、知識技能を高めることをめざし、授業態度、意欲などを考慮した評価を実施した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①出席について、できるだけ評価し、リズムのある生活習慣を促す。
- ②学生が主体的に取り組めるよう、小グループ討論などを授業に取り入れる。
- ③学生の進路、悩みなどの相談について随時応じる。

2. 点検・評価

- ①出席について、毎回出席をとり、評価し、リズムのある生活習慣を促すことができた。
- ②学生が主体的に取り組めるよう、小グループ討論などを授業に取り入れ、学生から多くの意見が出現し、自ら参加し、学習する態度が養われた。
- ③学生の進路、悩みなどの相談について随時応じ、直接または間接的に、専門的な見地から、相談に乗った。
- ④最近心の問題を発症する院生が多くなっており、専攻長として会議などを開いてバックアップする機会が多くなった。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ①22年度の研究について、「発達障害の早期発見早期支援システム調査」「発達障害の早期発見に関する予備的研究」などについて、小児の精神と神経、小児保健研究など学会誌に投稿する。
- ②院生を指導し、学会発表および学会誌に論文投稿をすすめる。
- ③学内外の研究助成の公募に積極的に申請する。

2. 点検・評価

- ①22年度の研究について、「発達障害の早期発見早期支援システム調査」「発達障害の早期発見に関する予備的研究」などについて、小児の精神と神経、小児保健研究など学会誌に投稿を検討し、小児保健研究に採用された。
- ②院生を指導し、四国公衆衛生学雑誌に論文投稿を指導し、採用された。
- ③小児保健とくしまにて、学会発表を行った。また、院生を指導し、日本LD学会に発表した。
- ④学内外の研究助成の公募に積極的に申請する予定であったが、諸般の事情(体調不良)により、時期を逸した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①心身健康センター相談員を務め、学生等の健康に寄与している。
- ②特別支援教育専攻の専攻長として、ニーズの高まる特別支援教育専攻の運営に取り組む。
- ③特別支援教育実習は、20年度より、受講希望者の増加に対応し、実習受け入れ校を附属以外の県立特別支援学校に拡大しているが、多くの問題点が挙がってきている。増加する長期履修生への対応その他、今後も、実習を行うについての困難が、予想されるため、学内の体制として他の実習と同様な体制整備を整え、全学的協力をお願いしたい。

2. 点検・評価

- ①特別支援教育専攻長として、ニーズの高まる特別支援教育の運営に取り組み、関係機関(徳島県、徳島県教育委員会、附属特別支援学校など)と連携し、スムーズな業務の執行、および広報啓発に取り組んだ。
- ②心身健康センター相談員を務め、学生等の健康に寄与した。
- ③セクシャルハラスメント相談員として、学生等の健康に寄与した。
- ④特別支援教育実習は、20年度より、受講希望者の増加に対応し、実習受け入れ校を附属以外の県立特別支援学校に拡大しているが、多くの問題点が挙がってきている。増加する長期履修生への対応その他、今後も、実習を行うについての困難が、予想されるため、学内の体制として他の実習と同様な体制整備を整え、全学的協力をお願いしたい。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①実習および教育研究プロジェクトなどにおいて、連携協力を進めたい。
- ②県保健福祉部障害福祉課および県教育委員会と連携し、発達障害に関するシンポジウムの開催、従事者研修会による人材育成など、普及啓発に努めたい。
- ③徳島県男女共同参画審議会会長として、男女共同参画について意識啓発等に取り組みたい。
- ④鳴門市自立支援協議会会長を22年度に引き続き務め、社会貢献していきたい。
- ⑤県立ひのみね特別支援学校運営協議会委員として、学校運営に協力する。

2. 点検・評価

- ①実習および教育研究プロジェクトなどにおいて、連携協力を進め、特別市お延教育に関してスムーズな協働・協力関係が築かれた。
- ②県保健福祉部障害福祉課および県教育委員会と連携し、発達障害に関するシンポジウムの開催、従事者研修会による人材育成など、普及啓発に努め、7年間の実績を築いた。
- ③徳島県男女共同参画審議会会長として、「男女共同参画のあり方について」徳島県知事より諮問を受け参画会議を開催し、取りまとめて答申を行った。
- ④鳴門市自立支援協議会会長を22年度に引き続き務め、社会貢献し、特別支援教育の普及啓発に努めた。
- ⑤県立ひのみね特別支援学校運営協議会委員として、学校運営に協力するとともに、実習先校として、スムーズな協力関係を築いた。
- ⑥付属中学校においても、特別支援教育のニーズが発生しており、学校からの要請に応じて専門的な見地から支援を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

発達障害に関する特別支援教育は、従来の障害児教育の概念を超えたものであり、ライフステージに沿った一貫した支援と、医療や福祉との連携が強く求められる。また、その対象児は特別支援学校のみならず、通常の学校、通常の学級にも在籍することを地域社会や、関係者に広く理解・啓発することが、重要である。

私たちは、7年前から徳島県保健福祉部と共催にて、発達障害シンポジウムを開催し、様々なテーマで実務レベルでの発表と討議を行い、発達障害への支援の在り方、などについて啓発活動を行ってきた。23年度についても、「発達障害シンポジウム2011」を行い、思春期をテーマに基調講演と県内外の実務者から発表と討議を行い、思春期の現状と課題について広く啓発した。この取り組みは、発達障害など特別支援教育に関する教育研究機関としての本学の専門性を広く地域社会に広報し、専門的な人材養成機関としての位置づけを印象づけることができたのではないかと考えている。また、この成果について、24年度事業に反映されることとなり、大学・附属学校の機能強化に向けて実績となる資料を作成できた。